

いちご病害虫情報第4号(9月)

平成27年9月18日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率	発生ほ場数	5	0	1	1	5	5	8	1	0	総調査ほ場数: 57か所 総調査株数: 1,425株 (調査株数 25株)
	本年平均値	8.8	0.0	1.8	1.8	8.8	8.8	14.0	1.8	0.0	
	平年値	8.6	0.0	5.8	3.1	8.1	27.9	9.5	11.7	1.5	
	(本年平均値/平年値) × 100	102.3	-	31.0	58.1	108.6	31.5	147.4	15.4	0.0	
	発生程度	平年並	少	やや少	やや少	平年並	やや少	やや多	少	少	
株率	発生株数	0	0	0	0	0	32	12	1	0	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病の発生ほ場が平年並に認められます。 ・うどんこ病の発生はやや少ない状況です。 ・ハダニ類の発生はやや少ないですが、一部で発生株率の高いほ場が見られます。 ・コナジラミ類がやや多い状況です。
	本年平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.8	0.1	0.0	
	平年値	0.4	0.0	0.5	0.1	1.0	6.8	0.5	0.8	0.1	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	-	0.0	0.0	0.0	32.4	160.0	12.5	0.0	
	発生程度	少	少	少	少	少	やや少	やや多	少	少	
概評		やや少	少	やや少	やや少	やや少	やや多	少	少		

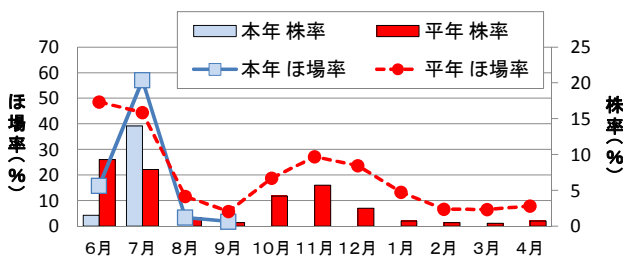


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

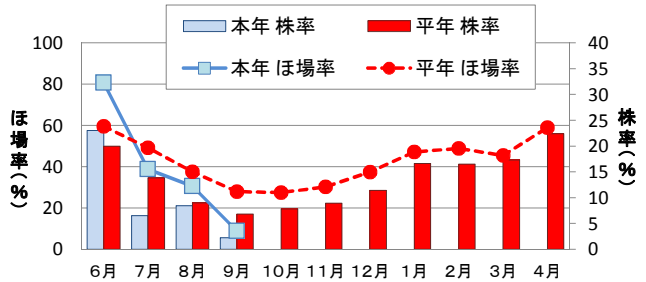


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

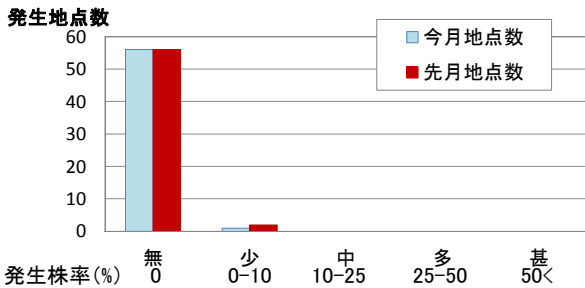


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

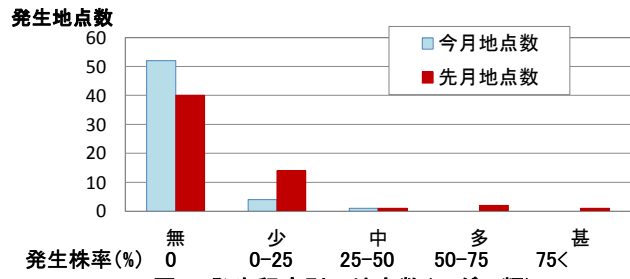


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、保温開始前からフルピカフロアブルやアフットフロアブル等を散布する。
- ・発生が見られたらガッテン乳剤等を散布する。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・天敵導入を予定する場合、導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、定期的に気門封鎖剤などを散布し、ハダニ類の増殖を抑制する。
- ・気門封鎖剤などによる葉の傷みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日は散布を避ける。
- * 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真 うどんこ病

○今月の技術情報(技術指導班)○(9月)

- ・今月はコナジラミ類がやや多く、アブラムシが平年並み、うどんこ病・ハダニ類・ハスモンヨトウなどは平年に比べ少ない～やや少ない状況です。また、育苗期には炭疽病による被害がみられており、定植後も発生することが懸念されます。
- ・現在少ない病害虫でも、今後の気象条件によっては発生が多くなることも考えられます。特に、気温の低下とともに、うどんこ病の発生増加が見込まれますので注意が必要です。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本ほでの発生が拡大しないよう、保温開始期までにしっかり防除しましょう。
- ・定植開始期後、大雨による苗の流失や畝の崩壊などの被害が各地で発生しています。灌水したほ場では、芽枯病や灰色かび病などの病害虫の発生が懸念されますので、防除の徹底を図りましょう。また、災害等の影響で定植苗が不足する可能性があります。定植時には、病害に犯されている可能性がある株は定植しないよう注意しましょう。